

事業名 しょうなんじま 城南島海浜公園人工砂浜整備事業

〔平成の海の開放、東京の海の自然を回復し、都民が遊び、育む「つばさ浜」整備事業〕

受賞機関 東京都港湾局東京港防災事務所  
緑地課  
東京都港湾局臨海開発部  
海上公園課

事業実施期間 平成5年6月30日～平成13年3月28日

事業費 4,138百万円

事業等の特徴

東京港に出入する船を間近に見られ、都心からのアクセスも良い海浜公園であり、利用者数も急増している。人工砂浜を整備したことにより、アサリ等の底生生物群の回帰が進み東京湾の自然再生にも貢献している。清掃ボランティアの募集など都民協働事業により地域にも着実に定着しつつある。

事業の概要と利用者等の評価

東京の港湾エリアは、大都市圏の物流機能や廃棄物の最終処分場としての機能を発揮していたが、昭和46年、海上公園を目的としてスタートし、30年が経った平成14年4月22日オープンしたのが、城南島海浜公園人工砂浜である。

○利用者等の評価

本事業は、工事前は高さ約2mのいわゆるカミソリ護岸であった。近くて遠い海であり、かつ触れる

ことができなかつた城南島の海に、広々とした砂浜と波打ち際が現れ、大潮と重なった土日祝日は、前年までの3倍の来園者があった。特に、平成11～12年に上層砂を入れた場所は、2～3年経っていることもあり、大粒のアサリがたくさん採れ、突堤近くではイソガニの生息が見られ、底生生物群の回帰が予想以上に進んでいることが確認された。

○周辺住民との協働事業

・城南島海浜公園人工砂浜がオープンし、半年経った10月5日（土）に、都民協働事業の一環として、清掃ボランティアを募集した。

・城南島海浜公園人工砂浜のネーミング（選考中）審査委員会委員の意見等

・東京にこの規模の親水空間を実現したという意義、効果が評価の対象となる事業である。

・都心からのアクセスも良く、来園者も増えていること、清掃ボランティアの活動も定着しつつあることが評価できる。

・地の利を活かした都心型水辺空間の創造・再生プロジェクトとして評価できる。

・清掃ボランティアの導入など評価したい。

・周辺部も“水と緑”のイメージを広げていくことを期待したい。

受賞賛助会員

国土総合建設(株)、佐伯建設工業(株)、(株)テトラ東京支店



砂浜清掃ボランティア着手前



清掃後